



開演2時間前の全体集会。役者とスタッフ全員で本番に向けて気合いを注入

メイクや衣装の直しなど、裏方スタッフも舞台を支えます



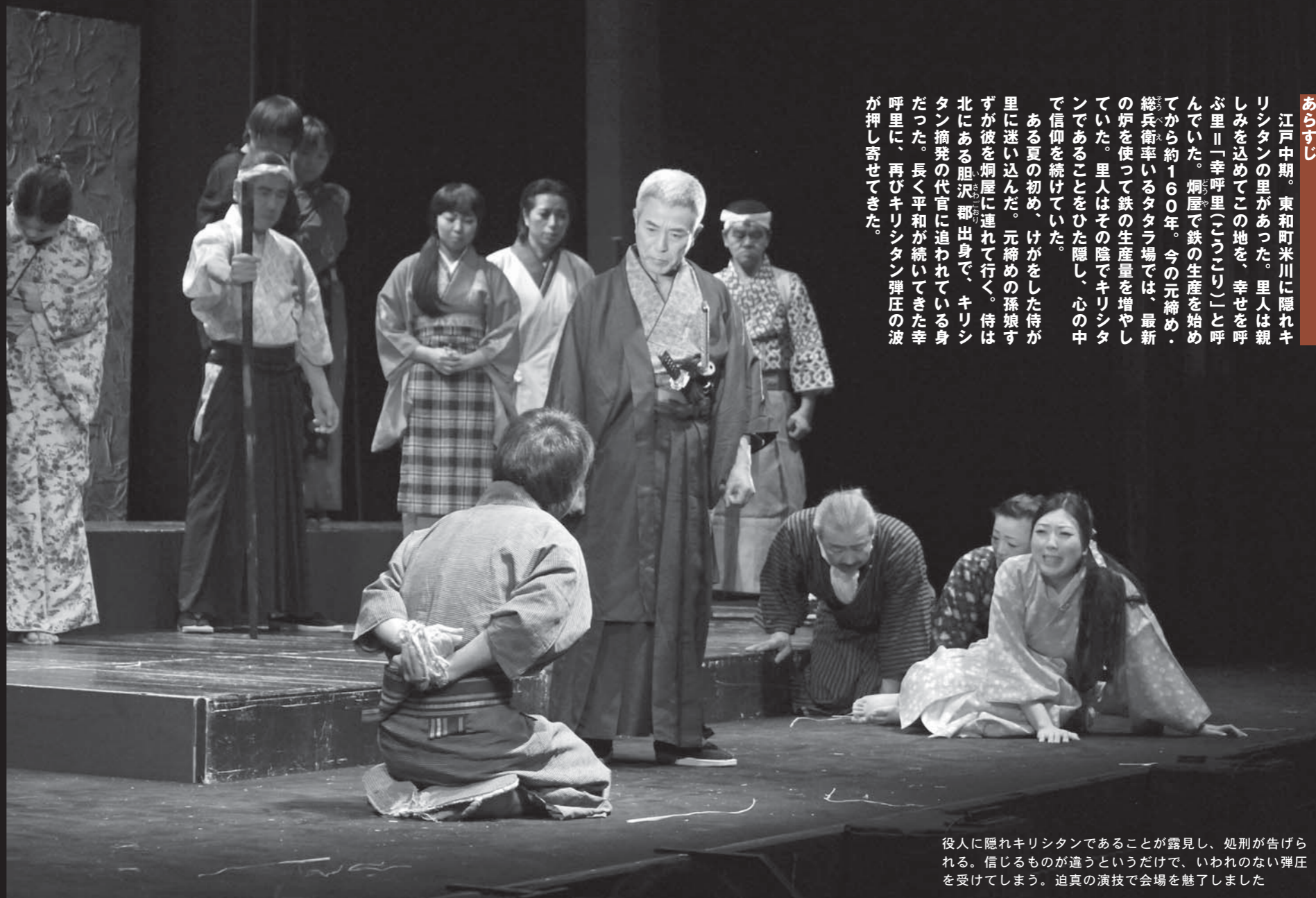
行き倒れた侍を助ける場面。子どもたちも自らの役をしっかりと演じます



お祭りの場面を盛り上げる「狼河原の田植え踊り」



客席を練り歩く「米川の水かぶり」。奇声を上げる姿は大迫力



あらすじ
江戸中期。東和町米川に隠れキリシタンの里があった。里人は親しみを込めてこの地を、幸せを呼ぶ里「幸呼里(こうこり)」と呼んでいた。畑で鉄の生産を始め、総兵衛率いるタタラ場では、最新の炉を使って鉄の生産量を増やしていた。里人はその陰でキリシタンであることをひた隠し、心の中で信仰を続けていた。
ある夏の初め、けがをした侍が里に迷い込んだ。元締めの子孫が彼を畑屋に連れて行く。侍は北にある胆沢郡出身で、キリシタン摘発の代官に追われている身だった。長く平和が続いてきた幸呼里に、再びキリシタン弾圧の波が押し寄せてきた。

役人に隠れキリシタンであることが露見し、処刑が告げられる。信じるものが違うというだけで、いわれのない弾圧を受けてしまう。迫真の演技で会場を魅了しました

感謝の思いを届けた夢舞台



2日間で約1500人の入場者が訪れ、通算2万4千人を突破した夢フェスタ水の里。役者をはじめボランティアスタッフ233人による16回の手づくり舞台に、客席からは割れんばかりの拍手が送られました



開場を待つ来場者。多くの皆さんが夢舞台を楽しみに訪れました



小ホールに設置した「米川PR館」。隠れキリシタンや製鉄関連の資料、米川の水かぶりや綱木之里大名行列の衣装が展示されました

東和米川 隠れキリシタン・製鉄物語

米川地区には、江戸時代中期にキリスト教信者120人が処刑されたという記録が残っている。米川地区在住の小野寺和彦さんの「せみ時雨の丘」を原作に、迫町の大友久仁恵さんが脚本と演出を手掛けた。「狼河原の田植え踊り」と国指定重要無形民俗文化財の奇祭「米川の水かぶり」が演じられる中、いわれのない弾圧に立ち向かった信者たちの姿を描いた。

せみ
幸呼里
隠れキリシタン
水かぶり